

# やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	21 / 2007 / 28-29
タイトル	今年もサケが来ましたー天田内川の記録(2006)ー
著者名	五十嵐豊

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

## 今年もサケが来ました ― 天田内川の記録(2006) ―

第6代 五十嵐 豊

一昨年の大量の遡上に続き、昨年も数百匹遡上した天田内川に、今年もサケが来ました。これまでの詳細は、やぶなべ会報 17号、20号で報告したが、今年(2006.平成18年)の経過について報告する。

河川の改修工事が4月から再開され、上流150mほどが新たに改修された。しかし、改修終点はなぜか蛇籠で止められ、中央に幅5、60cm、長さ2mほどの水路があるだけで、サケの遡上にまたひとつ試練が与えられている(写真1)。



[写真1] 蛇籠で止められた改修終点

今年10月17日に、公園下(地名は会報20号の天田内川流域図参照)で1匹見つけたのが最初であった。この日は河口から調査し、飛龍橋下流で古い感じの死骸を見つけて驚いたが、まさか昨年のもとも考えられず不思議な気がする。最初の発見は昨年は9日、一昨年は12日だったので、今年の初見は遅れていた。19日森林軌道跡下で4匹、20日は見られず、21日は同じ軌道跡下で3匹見られた。改修終点の水路は水量が多くなれば無事遡上出来るようだ。23日は改修終点で3匹、24日は4匹、26日は改修終点で2匹、軌道跡下で1匹、28日は河口から調査したが、公園下で死骸1、軌道跡下で2匹だけ、31日は公園で1匹、軌道跡下で死骸1、数少ない遡上で死骸が見られるのは、長い回遊で精魂尽きて、川に遡上した途端に死んだのだろうか。

11月に入ってから遡上が少なく、1日は軌道跡下で1、下流の水路で2匹、2日は水路で1匹、4日は水路で2、6日は1匹だけ、それにしても少ない。軌道跡下の段差は解消されたので、これまでに遡上したのはさらに上流に行ったのだろうか、上流も少し調べたが見つけられなかった。9日は公園周辺で8匹、改修路で1、軌道跡下周辺で12、合計21匹とやや多くなった。13日は9日とほぼ同じで22匹、18日になるとやや増えて公園で5、船岡橋付近で17、改修終点で3、軌道跡で15、合計40匹になった。

19日にはさらに多くなり、この日は河口付近でも2匹見られ、公園で8、船岡橋で25、改修終点で5、軌道跡で30、合計70匹になった。サケも好きな所があるらしく、なぜか船岡橋付近と、軌道跡が多い。24日は公園で10、船岡橋で40、改修終点で10、軌道跡で50、さらにこの日は軌道跡上流部でも初めて確認され、国道280号線までに10匹以上が見られ、合計120匹以上になった。またこの日はテレビが取材しており、放映されたようなので見た人もあるでしょう。

28日は河口から岡町まで調査したが、河口付近では見られず、鉄橋下で5、公園で20、中道橋で5、船岡橋で50以上、改修路で10、軌道跡で50以上、岡町までに30以上、合計170匹以上、死骸も10匹確認された。

12月2日には河口付近で5、鉄橋で10、公園で10、船岡橋で20以上、改修路で10、水路で10、軌道跡下で20以上、合計85以上、死骸も45以上が見られた。この日は軌道跡からの上流部



[写真 2・3] 2006 年 12 月 2 日の様子

は調査しなかった。

2日の夜からは、12月の初めとしては何十年ぶりの大雪になり、全体の調査は出来なくなった。5日に船岡橋から覗いたら10数匹が、6日には中道橋で5、船岡橋で15匹ほどが元気に泳いでいた。8日中道橋で1、死骸10、船岡橋で20匹ほどが群集し産卵準備行動も見られたが死骸も10匹ほど見られ、多くは死んだものと思われる。今年の観察はこれで終了した。

さて、今年はどれだけ遡上したのだろうか。最高170匹以上、死骸も10匹確認されたことから、昨年より多く300匹以上遡上したような気がする。森林軌道跡道路下の段差も解消されたことから、今年は上流部でも観察されており、少しは自然環境の良いところまで遡上した個体もあつただろう。自然での産卵、孵化を期待したい。

一昨年の大量遡上に続く昨年の遡上、そして今年と三年連続して多くのサケが遡上した。三年続くと、来年も当然と云う気になる。天田内川がサケの上る川として定着してほしい。(2006.12.8 記)

### [追記]

12月8日で今年の観察を終了し報告したが、その後降雪が無く、若干の観察が出来たので、追加の記録を報告する。

12月9日公園で5、中道橋で1、船岡橋で15、軌道跡で10匹。12日公園で5、船岡橋で5匹と急に少なくなったが、軌道跡は見なかった。15日には船岡橋で5、軌道跡で10匹。19日は中道橋だけの観察で2匹が見られ、まだ生息しているのが確認された。

その後、雪も少なくなったので、23日、河口から軌道跡まで調査してみた。河口から飛龍橋までは見られなかったが、鉄橋下で1、公園で1、中道橋で2、船岡橋で3、改修路で1の計8匹だけで、水路から軌道跡では見られなかった。死骸は確認できた数が163匹であった。

遡上したサケがいつまで生存できるのかわからないが、少なくとも、12月中は生きているようだ。

これで今年の観察は終了するが、気づいたこととして、今年は大型の個体が多いように思う。直接、計測したわけではないが、1mに近いものが多かった。サケは4年生から5年生で遡上するようだが、昨年の個体は小さいものが多かったように思う。昨年は4年生の遡上が多く、今年は5年生の遡上が多かったのだろうか。(2006.12.23 記)

[編集部注] 天田内川のサケ遡上の様子は、RABテレビのニュースで紹介されました。そのワンカットに観察を行っている五十嵐豊氏の後ろ姿も写っていました。